

再発見 ほうれんじ 法蓮寺 (金光明山法蓮密寺)

鹽竈神社が鎮座する一森山の東側に、かつて「法蓮寺」という真言宗寺院がありました。江戸時代には、伊達家の手厚い保護のもと、鹽竈神社の別当寺(神社を管理するために置かれた寺)として大きな勢力を誇りました。

法蓮寺は、次第に神社の社務一切を支配するようになり、僧侶と社家との間で対立が生まれました。この対立は、後に仙台藩を巻き込む大きな事件にまで発展しました。



▲勝画楼(法蓮寺方丈) 江戸時代中期



一森山東端の丘陵上に、法蓮寺の本堂仏殿である護摩堂と、三十三観音ほか多数の仏像を安置していた観音堂(千佛閣)がありました。勝画楼は法蓮寺の方丈(客殿)であり、眺望のよい崖地にせり出す形で建てられ、仙台藩主が神社を参拝する際にはここが御休所として利用されました。

法蓮寺には12院の脇院がありました。『奥州名所図絵』には、裏坂(東参道)周辺に脇院が立ち並んでいた様子が描かれています。脇院の1つである普門院は白坂にあり、普門院内にあった観音堂は今も「白坂観音堂」として残っています。

明治初期の神仏分離令に端を発したいわゆる廃仏毀釈の中で法蓮寺は廃寺となり、広大な伽藍は取り除かれ、勝画楼が残るのみになりました。

※『奥州名所図絵』に描かれておらず、どこにあったか不明だった地蔵院は、近年の研究により、現在の神社社務所付近にあったと考えられています

一 法蓮寺の遺物

明治4年(1871)に法蓮寺が廃寺となり、仏像や仏具などの寺宝は各地に分散しましたが、その一部は今日まで伝えられています。

白坂観音堂の銅鐘(①)は、法蓮寺脇院の普門院で使われていたもので、明治から昭和45年(1970)まで塩釜警察署・消防署に移され、市民に火災を知らせるために使われました。

小池曲江筆の涅槃図(④)は、市内佐浦家の注文により制作され、法蓮寺に奉納されたもので、現在は佐浦家の檀家寺である東園寺に所蔵されています。

ほかにも、向泉院(多賀城市)の不動明王像、勝大寺(栗原市)の愛染明王座像(③)、慈雲寺(多賀城市)から移築復元された向拝(②)などが法蓮寺関連の遺物として知られます。

※画像③④ 東北歴史博物館蔵

勝画楼に関する写真、資料、思い出などをお寄せください



教育委員会では、勝画楼についての調査を継続しています。勝画楼の古写真や絵はがきの資料、結婚式や披露宴の思い出など、どんな情報でも構いませんので、提供ください。



▲①



▲②



▲③



▲④

問 生涯学習課学習支援係 ☎362-2556